

れんがに押すスタンプを作る



まち歩きで見つけたお気に入りの形から、れんがに押すデザインを考えました。

まち歩き



学校や駅の周りを探索。いろいろな物を見て・聞いて・触って、新しい駅に残す形を探しました。

次 代を担う子どもたちに、新しい駅や白石のまちに愛着を持ってもらおうと、平成22年6月に始まった「つむつむレンガプロジェクト」。この取り組みに参加したのは、JR白石駅近隣の白石小、本通小、北郷小、北白石小の児童約400人です。レンガウォールに組み込む作品を作るため、ワークショップを通じて、れんがに刻む模様やれんがの積み方を考えました。

まず、白石のれんが生産にまつわる歴史を学習。学校や駅の周辺を歩いて、木や花、建物などに触れ、イメージを膨らませながら、れんがに押すスタンプをデザインしました。さらに「はな」「くるま」など、まちにある物の名前から新しい繰り返し言葉をづくり、その言葉を基にれんがの積み方を決めました。

昨春秋、駅北口に北郷小と北白石小の作品が、南口に白石小と本通小の作品がお披露目されました。ぜひ、子どもたちの未来へつなぐ思いを間近に感じてください。

つむつむレンガ

JR白石駅の駅前広場で、人々の目を引くれんがの壁「レンガウォール」。そのユニークなデザインには、駅近隣の小学生のアイデアが生かされています。



「白石レンガ」

JR白石駅周辺は、かつて良質なれんがの生産地でした。緑の深いれんがを未来に伝えようと、地域で2つのプロジェクトが進められました。

白石の土を使った「白石レンガ」が80年ぶりよみがえりました。区民などの名前が刻まれた褐色のれんがには、白石の歴史を未来に伝えたいという思いが詰まっています。

思い出しレンガ



しろいしレンガくん

